

橋本 五郎 講演会

プロフィール

現職 読売新聞特別編集委員

ノースアジア大学 法学部教授

ノースアジア大学 教育諮問委員

履歴 秋田県山本郡琴丘町(現在の三種町)生

慶應義塾大学法学部卒業後、読売新聞へ入社。

入社後は、浜松支局の記者を皮切りに、読売新聞東京本社社会部記者、政治部記者、政治部次長、論説委員、政治部長、編集次局長を歴任。



「これでいいのか日本の政治」

開講日時▶ 7月16日(日) 午後1時30分～3時00分 (開場 午後1時00分)

会 場▶ ノースアジア大学 40周年記念館 2階 271教場

講演内容

岸田内閣が発足してまもなく2年になろうとしている。旧統一教会問題などが下火になっているとともに、5月の広島サミットの議長国を務めるなど外交的な実績も見込まれ、内閣支持率は底を打って上昇に転じようとしている。その一方で、家庭の台所を直撃している諸物価の値上げはいっこうに収束を見ない。岸田政権は、当面する諸課題に対してどう対応しようとしているのか。「聞く力」はあっても「決断する力」に乏しいと言われた岸田首相だが、防衛費の対GDP比2%への拡大や原子力発電所の再稼働など、昨年末から「決断する首相」のイメージを印象づけようとしている。

そのこと自体は評価できるが、問題は決断するに当たって、自民党内や政府内で十分な議論を行っているかどうかである。岸田首相は来年9月には自民党総裁としての任期が切れる。来年を見据え、今年秋にも衆院を解散して権力基盤を確かなものにしようとするだろうが、その場合の鍵になるのが自民党内の支持の広がりである。そのためにも、「チーム岸田」を再編成し、かねての公約である「新しい資本主義」の具体的肉付け、子育てなど少子化対策などの迅速な執行が必須となる。この場合の岸田首相を支えるキーマンは誰かなども分析しながら、岸田政権の行方を探っていこうと思う。